

2022 年 日本小児泌尿器科学会優秀論文賞 症例部門

Successful Fowler-Stephens Orchiopexy for an Abdominal Testis Associated With Continuous Type of Splenogondal Fusion: A Case Report

青柳 力夫 (福岡大学医学部 腎泌尿器外科学講座)

この度、大変栄誉ある優秀論文賞(症例部門)を頂きまして、誠にありがとうございます。当教室では、2019年松岡弘文先生の優秀論文賞(臨床部門)に続いた受賞となりました。日本小児泌尿器学会の先生方から福岡大学小児泌尿器の診療と学術を評価いただけていることは、日々の診療の励みとなっています。

本症例は、脾臓性線癒合に合併した腹腔内停留精巣に対して、世界で初めてFowler-Stephens手術を成功させた症例です。脾臓性腺癒合は、稀な先天奇形で、これまで約150例が報告されたに過ぎません。この先天奇形は、連続型と非連続型に分けられます。本症例のような連続型では、性腺と脾臓が癒合し、脾臓が腹部下方に延伸します。今回の手術が適切に実施できた理由は2つあると考えられます。1つ目は、腹腔鏡検査で左上腹部に続く巨大な精巣腫瘍が疑われたものの、冷静な判断のもと、摘除を行わなかったことです。2つ目は、MRIでは上腹部から骨盤部へと撮像範囲が広がると、解像度の低下により正確な診断が困難であると考え、術前に造影CTを施行したことです。その画像を基に、適切な血管処理と脾臓の離断を行うことができ、精巣の萎縮に至らずに、精巣固定術が可能となりました。私は、本症例を通じて、個々の患者さんに合った検査、治療を実施することの重要性を学ぶことができました。

最後にこの場をお借りして、論文作成にご協力いただいた当教室の松岡弘文先生、羽賀宣博教授並びに教室の先生方に、感謝申し上げます。